

会員紹介

Heat up

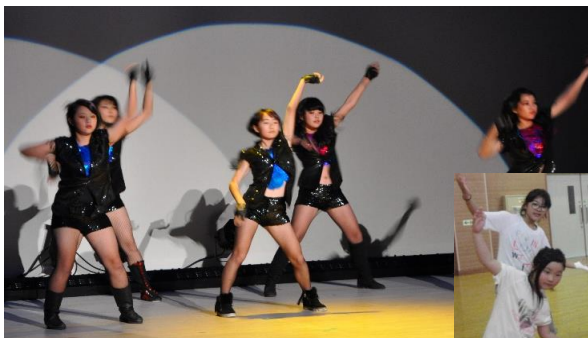
ヒートアップは、保育園の年長さんから高校生までのメンバーが、ヒップホップダンスを行っているサークルです。ダンスを教えて下さる先生は、東京に在住しており、今年度は7、8回、八丈島レッスンの予定。（詳細は決定次第発表いたします）

毎年、5月の八丈祭、7月夏祭り、10月に大神宮祭り、1月の（今年度は2月の予定）文化フェスティバルと、舞台に出演しています。

練習は、毎週日曜日（舞台前は土・日）で、福祉センター・アイコロ・公民館などでやっています。

内容は、ダンスを踊るのはもちろんですが、基礎練習・リズムトレーニング、体幹を鍛えたり、踊り以外のトレーニングも音楽をかけながら楽しくやっています。

ダンスに興味がある子達、いつでも募集していますので、気軽に来てみてください。時間は、その月の予定にもよりますが、14時から17時までやっている事が多いです。



スキルアップや経験の為に、東京の大会に出場している子達もいますよ！

4月からは、また新しいメンバー2名が入りました。一緒に踊れるメンバーをお待ちしています!!



→5/5の
八丈祭出演の練習 がんばる～

八丈島文化協会 会報 第17号

八丈町三根4869-1 八丈島文化協会事務局 Tel/Fax 2-2833
HP: <http://www.8jobunka.jimdo.com/> e-Mail: bunkakyoukai8jo@yahoo.co.jp

2017年5月10日発行

設立6年目の文化協会、 6月3日に商工会研修室で総会

豊かな地域文化活動を目指し組織や財政の充実を

第6回総会を6月3日（土）午後7時から商工会研修室（町役場内）で開催します。各団体会員・賛助会員代表及び個人会員の皆さんの多数の参加をお願いいたします。（出席が困難な団体等は委任状の提出をお願いいたします）。

この5年間、協会は会員の期待とニーズに応えられる活動をと願いながら組織体制づくりを中心に地域活動をやってきました。とりわけ弱体である人材育成や弱小な財政基盤の強化に精力を注いできました。まだまだ不十分のところばかりですが、是非総会に出席して意見を反映させて下さい。総会は年に1回、この1年の課題と目標を皆さんに示し、会員と理事が一体となって膝攻めで、方針の具体化のために意見交換できる機会です。出席をお待ちしています。

総会は、今年の活動の良かった点、悪かったところなどを点検し、今年1年のやるべきことと、やりたいことを検討・協議し決定する場です。皆さん一人ひとりの要望や具体的な提案が今年の活動を創ります。多くの参加と具体的な提案がないと、協会の活性化は望めません。

ところで、今年の協会は子どもに例えれば6歳、小学校1年生になります。保育園児時代とは異なり、本格的に学びの始まる年齢です。この八丈島の、この時代（とき）に相応しい活動を考え出し実践化出来るような学びにも大いに力を注ぎたいと思います。

第6回総会
会場：八丈町商工会研修室
日時：6月3日（土）
PM 6:00～

H29年度 協会主催イベントの日程

第5回八丈島芸能文化祭	7月8日（土）
八丈島JAZZフェスティバル2017	8月20日（日）
子ども招待公演（人形劇上演）	10月7日（土）
第74・75回八丈島民大学講座	H29年9月、H30年2月に予定
第29回八丈島文化フェスティバル	H30年2月18日（日）

文協コラム 南風

No. 12

◆3月末で文化協会の第5年度活動が完了した。29年度の活動指針を決める理事会は議論百出、まともに悪戦苦闘中だ。40年以上様々な活動に関わっているが、いつも苦勞させられる難儀で厭な仕事である。◆H28年度の活動が滞りなく完了した。日頃の活動をいつも気にかけて下さる会員と関係者各位に感謝とお礼を申し上げる。多くの支援と協力で年ごとに拡がりを見せていて、協会スタッフのやる気を応援してくれている。今回はこの1年の活動の総括と報告を皆さんにご披露したい。◆「第28回文化フェスティバル」。様々なジャンルの文化団体の発表の場として定着した。島の文化祭として、内容の多様性とレベルアップを誇り、誰もが楽しめる参加できるイベントとなった。30年度は30回の記念大会を迎える。◆「ジャズフェスティバル2016」。紆余曲折があり今年度から文化協会主催となった。協会のよりフリーな環境が功を奏したのか、中高校生の運営参加や島の子ども達を招いてのコーポレーション演奏などで、島のイベントとして一回り成長できたと思う。◆「第4回芸能文化祭」。地域の人達が生活の中から生み出した伝統芸能を、伝えることと再度地域に根付かせる目的を持って奮闘している。掘り起こし活動とともに、どう地域の皆さんにわかりやすく演じるか、脚本作りの苦勞が毎回続くが、地域との関わりの中で八丈らしい出来上がりが好評だ。新しいジャンルの芸能とのコラボも試みられている。

◆「八丈島民大学講座」。70数回の講座を誇る伝統ある活動だが、今年度から協会主催となった。例年2回の講座を開催し根強いファンが多い講座である。首都大学との連携講座（年1回）が定例化し好評だ。今冬の講座に、地域住民と行政の協力協働の島づくりで有名な島根県の離島「海士町」から講師を迎え開催した。近年珍しく多くの出席があり関心の高さを示した。◆子ども文化体験事業（まろ法人あびの美と共催）。子どものための無料舞台芸術鑑賞会を開催しており、文化活動での連携をあびの美と図っている。◆「富士見地区公会堂」の運営。H25年度より富士見地区公会堂指定管理者として八丈町より管理運営を受託し、9時～22時までホール・会議室の貸出業務などを行っている。◆その他、会員団体・個人及び行政との連携、島外を含む外部団体との連携、調整、相談、支援、後援、弔など多岐にわたる。これらの業務を処理するため、土・日・祝日以外の午前中は事務所を開設している。また、公会堂の利用は土・日・夜の利用も多く365日休みがない。◆28年度を終えるに当たり1年の活動を振り返ってみたい。皆様の一層のご理解ご協力を得たいと思う。29年度も少しでも意見や期待に応えられるよう、理事全員心して活動を引き締めていこうと思う。

（会長 内山江差夫）

杉の森混声合唱団八丈島公演

先月4月23日八丈町「おじゃれホール」にて杉の森混声合唱団の演奏会が開催されました。鹿内芳仁氏が指揮する杉並区内で活動する合唱団の中から、オーストリアの合唱団との交流を目的に結成された別名（コーアツェーデルンバルト）は日本国内はもとより、世界各地で演奏活動を行っており（2015年にはヴィーゼルブルグで交流演奏会を行いました。）鹿内氏は八丈町が新しいホールを建設し音楽文化の交流活動に熱心に取り組んでいることを知り、個人的にも縁の深い八丈島での交流演奏会を計画しました。2008年からゆきわり草の仲間とともに増田明美さんの夢伝大会に参加、ちょんこめ作業所でのベートーベンの交響曲第九番の合唱指導を縁に八丈島と交流を深めております。

八丈島公演は、地元の八丈混声合唱団、ちょんこめ作業所合唱団との共演、團伊玖磨作曲オペラ『夕鶴』は鹿内芳仁氏と菊池加代子さんのアリア重唱や混声合唱組曲『筑後川』全曲と吉田賢二郎氏のテノールソロ、杉の森混声合唱団の日本の抒情歌、そして「ちょんこめ作業所合唱団」との手話付き八丈町歌などボリュームのある演奏会でした。

ご来島頂いた合唱団の人数は約30名。八丈混声とちょんこめさん約60名、観客数は200名に満たない程でした。この度演奏会の相談を受け後援を引き受けた文化協会としては、自費で島外から来られる団体に対し演奏会の手段、広報のアドバイスがもっと出来ないものかという課題を残した様に思いました。
(八丈混声合唱団 山下 巧)



第90回 あびの実公演 5/20 (土)

ティコポのガラクタ音楽会 TOMO OFFICE

三原小学校体育館
午後1時開場・午後2時開演
(午後1時から会場でマイ楽器を作ります)

「もったいない」、日本発のこの言葉は世界に広まりました。今回の音楽会は本来捨てられてしまう廃品を楽器と化し、音楽の高みにまで持っていくという、エコ社会にぴったりの音楽会です。

主宰者の山口とも氏(廃品打楽器協会会長)は語ります。すべての物には音がある、それを『楽器』として加工し『新たな音』として発見する。

想像できない音が出るのが廃品打楽器。結果がわからないからおもしろい。

つまり“音を楽しむのが音楽、器の音を楽しむのが楽器、それを楽しむのが人間！！”
世界に一つのマイ廃品打楽器を作って、音楽会に参加しましょう。

※5月20日(土)の1便欠航の場合は21日(日)に行います



主催：八丈島文化協会
八丈島あそびと文化のNPOあびの実
後援：八丈町教育委員会
お問合せ 04996-2-4084
メール abinomi8jo@yahoo.co.jp

5月～6月のイベント(協会主催・後援、加盟団体主催等)

- 《5月》 14日(日) 第21回をどり 之津帆の会
20日(土) ティコポのガラクタ音楽会(文化協会・NPOあびの実共催)
※前号掲載時から日程が変更になりました。
21日(日) 自然っ子クラブ発足式
28日(日) 八丈島浪漫音楽祭2017(協会後援)
- 《6月》 11日(日) 檜会日本舞踊発表会
11日(日) 梅雨の洞輪沢ハイキング

公会堂に
念願の鏡が



団体交流会(4/7) 10団体&個人会員のみなさんと

4月7日、19:00より文化協会(富士見公会堂)にて第3回会員交流会を行いました。文化協会活動についての提案、予算、おじゃれホールの使用、町への要望など、アンケートの結果報告が行われました。各団体、理事を含め16名参加しました。

アンケートと交流会の意見を抜粋しますと、

- 1) 協会会員である事のメリットがもっとあったら良い
- 2) 郷土芸能が地域に根付く取り組みを
- 3) 町ホールでの映画会の実施と有料化
- 4) 文フェスの1月開催は流感が心配で、再検討が必要
- 5) 町ホールの予約は直近でも柔軟な対応をしてほしい
- 6) 町ホールの技術スタッフのあり方の検討を
- 7) 町からの一層の支援が必要
- 8) 島外からの利用申請をやり易く
- 9) 伝統芸能を大切に予算組みを
- 10) 町づくりの中で文化の位置づけと方向性を
- 11) 文化をどうとらえるのか
- 12) 島外団体の橋渡し役も大切な活動
- 13) 将来的に法人化を目指すべきと思う
- 14) 補助金の扱いについて

左記のような質問と回答で、活発な意見交換が行われました。

協会の交流会事業としては「昔のお月見会」「バーベキュー」「焼き芋お楽しみ会」を行いました。

文化協会にとって、団体やサークルがお互いに交流を深めながら協力し合って、文化活動が円滑に活発に続けられる事が望ましい地域活動です。「文化協会は何もしてくれない。メリットもない」ではなく、文化協会の不





